2013年6月20日（木曜日）の下野新聞にハンガーゼロ自販機の記事が紹介されました。

自販機を使って社会貢献

那須塩原のパン・アキモトが新事業

アフリカ支援と防災備蓄

キリンビバレッジと協働

パン製造販売のパン・アキモト（那須塩原市東小屋、秋元義彦社長）は、清涼飲料水大手のキリンビバレッジ（東京都中野区）などと協働で、備蓄用の「パンの缶詰」を使った社会貢献事業に乗りだした。飲料自販機の売り上げの一部をアフリカに送るほか、水とパンの缶詰を収めた備蓄ボックスをキリンの飲料を販売する自動販売機とセットで設置し、大規模災害に備える。19日に第1号の自販機と備蓄ボックスがパン・アキモトの本社敷地内に設置された。（飯塚博）

自販機と備蓄ボックスを設置した秋元社長（左）と真田弘二キリンビバレッジ首都圏地区本部市場開発部長＝19日午前、那須塩原市東小屋

2社のほか、世界の貧困や飢餓の問題に取り組むNGO「日本国際飢餓対策機構」（大阪府八尾市）が協力。

キリンが設置する「ハンガーゼロ（飢餓がない）自販機」の清涼飲料水の売り上げ1本につき、同社が設置者に支払う手数料から10円が同機構を通じてアフリカの飢餓問題解決のために寄付される。

自販機とセットで設置する備蓄ボックスはキリンが用意し、同社の負担でアキモトのパンの缶詰とボトル水を各96本収めて保管する。大規模災害発生時に無償で提供する。

キリンビバレッジは清涼飲料水の自販機シェア約9％で国内4位。他社が導入する社会貢献型自販機との差別化を図ることも狙いの一つ。アキモトはパンの缶詰を永続的に納入し、両社は年度内に100台の設置を目指している。

水とパンは賞味期限が切れる前の2年ごとに入れ替え、消費されなかった分は、同機構を通じて飢餓に苦しむ国々への支援と福島の被災者支援に回す。

パン・アキモト営業本部の秋元信彦部長は「まず南海トラフ地震が懸念される関西方面での営業に力を入れる。感触はいい」としている。